

2021年度 事業報告書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

特定非営利活動法人
アフリカ児童教育基金の会ACEF

新型コロナウイルス感染症の影響

1990年から30余年、当会所長を勤めてきた塩尻安夫所長が間接的にコロナウイルスが起因の疾患のため2021年4月に現地で逝去し、同年7月、塩尻美智子夫人が新所長に、佐藤洋司氏がジェネラルマネージャー(GM=統括部長)に就任。新体制で手探りながらの活動年であった。

当会のほとんどの事業はケニア人が責任者で日本人は統括業務を担っているため、少数の日本人スタッフで現地活動を継続運営した。

ケニア国内における新型コロナのワクチン接種は2020年年末から実施されているが、2度目の接種を完了した人は3割程度と言われており、市井の人々はワクチンの接種が進んでいない。その原因としては、最初のオリジナル株では多数の人が亡くなったが、それ以降の変異株に対してケニア人はある程度の耐性や免疫があるかのように重篤化しにくい傾向がある。また慢性的にマラリアのような感染症が蔓延していることから、感染症に対する危機感も少なく、副反応があると聞いて、予防接種には非協力的である。

ボランティア/インターンは海外旅行者保険(フルカバータイプ)に加入、誓約書を提出した少人数のみを2月より受け入れ。

2022年3月現在、国際線は運航されており、ワクチン接種済みの証明があればケニアへの入国が可能となっている。

定款1の医療援助事業

エンブ(タウン分院を含む)、エナ、マキマの3つの病院を運営。

新型コロナのワクチンも3病院の医療スタッフは接種済み。

エンブ病院では2021年10月までコロナ用の隔離病棟を設置。陽性者の対応をした。迅速な対応や充実した機器が備わっていることから、近隣地域からも信頼がおける私立病院としての知名度が高い。

エナ病院は、エンブ病院傘下で順調に稼働。特にエイズケアセンターは、コロナ禍でさらに弱者となったエイズ患者への定期健診、処方のほか、患者のカウンセリングの他にエイズ予防啓蒙活動と、後出の患者宅の訪問ケアを実施。

コロナ禍のため、近年好評だった医療系学生のボランティアは受け入れできなかった。

マキマ地区のマキマ分院は、設備も整っているため、コロナ対策をしながら、引き続き近隣住民への医療サービスの提供を継続した。

毎年恒例になっていたがコロナで延期になっていた、エイズ疾患やガン検診のメディカルキャンプ(住民への無料診療)を、マキマ分院にて4月半ばに実施を予定している。

定款2の医療講習会開催事業

エナ病院エイズケアセンターでは、2019年度より医療法人社団元志会の支援を得て、来院の必要があるのに、経済的または身体的に困難で診察に来れない患者宅への訪問ケア(診察、投薬、カウンセリング、栄養指導など)を月10回程度、コロナ対策をしながら実施。特にコロナ禍でさらに弱者となった患者のケアをしている。

ケニアは妊娠しても妊婦検診に来ない場合も多く、また出産後のカウンセリングが必要とされる母親も多いため、今年から母子健康セミナーを月1回程度行って悩みをシェアしたり、特に若い母親のケアをしている。

定款3の職業技術訓練

通常は主に経済的や諸事情により義務教育(6歳から13歳までの8年制)を修了出来なかった青年及び子女を対象に、8つのコース(自動車整備、板金塗装、金属加工、家具木工、洋裁服飾、美容、コンピューター技術、自動車免許取得)に分けて、将来の雇用を促進する教育事業として当会が運営。ケニア政府公認校に指定されて11年。エンブ郡から教員派遣などを受けて自立運営しているため、当会からの事業費の支出はなし。

職業訓練校は、2021年1月からケニア政府のガイドラインに沿ってコロナ対策(マスク、手洗い場の設置、教室内の人数制限など)をして再開。

毎年行っている他団体NPO法人が支援する事業とコラボし、学校の長期休暇を利用し、年3回、当職業訓練所で小学校教師や洋裁教師の再トレーニングプログラムも今年は再開、実施した。

定款4の教育支援

小学校運営

2020年度は変則的な授業を行っていたが、2021年1月より全学年が対面授業を再開。

ケニアの義務教育を行う小学校(7歳から14歳までの8年制)は、年末に行われる全国統一高校入学試験(日本のセンター試験のような試験で、この成績により高校が振り分けられる)では、コロナ禍の不十分な勉強の時間にも関わらず、今年もエンブ郡の450校中、男子最高得点取得者、女子最高得点取得者を輩出し、エンブ郡総合首位を10年連続で独占した。受験者約100万人中、500点満点中400点以上を獲得したのは1%未満だったが、当校からはその400点以上獲得した生徒を今年は11名輩出し、自他ともに認める国内でも上位校となり、将来、ケニアを背負って立つ優秀な人材を育成している。生徒数 保育所を含め、総生徒数 約650名

新型コロナウイルスの影響で休校を余儀なくされ、2020年度の授業が思うようにできず、2021年度(通常は1月～12月)の授業も2022年3月末までずれ込んだが、授業数や休暇の短縮などで2022年度は年内に授業を消化できる予定。

また、これまでの小学校 8 年制(義務教育)、高校 4 年制の区分であったが、中学校(Junior Secondary)を新設し、2023 年 1 月より教育の新システム(CBC=小学校 6 年、中学 3 年、高校 3 年)がはじまる。中学のための教室の増築を行っているが、小学校は自立採算できているため、当会からの事業費の支出はなし。

エイズ孤児院 ジャンプ&スマイルセンター運営

「エイズ感染孤児」を対象にした、子供たちの生活向上と教育支援事業を実施するための ACEF ジャンプ&スマイルセンターの運営も継続。近隣の2つの小学校に分かれて通学。

また小学校を卒業し、高校、職業訓練校へ進学した者も出ている。高校生は J&P から通学している者、高校の寮に入っている者、保護者宅から通学している者など様々。

エナ・エイズケアセンターと連携して健康管理を行い、子供たちに教育の場を提供し、せっかく生まれた人生の生きる道を探り、絵画や音楽、ダンス、スポーツなど適性を生かした道とともに支援している。

また、エイズ孤児施設の経済的自立のため、有機農法による農園を整備し、家畜の世話をし、自給自足の生活を目指している。クラウドファンディングにより、ダチョウ園を含むジョイアsparkを建設した。詳細は後述する。

日本 E リモデルの支援を受け、以前に掘削していた井戸にソーラー式井戸を設置。孤児院や隣接農地で使うほか、孤児院の子ども達が通う小学校や高校の近くに蛇口を取り付け、登校前の水くみで利用できるようにし、安心して安全な水の確保ができるようになり、学校側から大変感謝された。

定款5の有機薬剤及び有機肥料の製造と普及の推進

農業立国を目指すケニア国家の国策を支援するため、従来から有毒で高価な化学肥料や、化学農薬に依存してきた農業栽培方式から、安全で安価な有機微生物を活用した「有機肥料及び農作物の病害虫を抑制」ための、自然再生型の農業栽培の転換を目的として、貧しい農民への「有機肥料の知識と技術」の教育を継続。

有機肥料を製造、販売、普及啓発する EM ケニアという別会社に普及活動を委譲したため事業費の支出はなし。

定款6 環境保全に係る事業

環境保全活動

ACEF の関連施設のスタッフなどが参加し、また環境保全に興味があり意欲のある学生グループなどにも呼びかけ、毎年実施しているクリーンナップデイは、今年度コロナ禍のため中止。

公共イベントなどで散らかるゴミを拾いながら、環境保全について話す機会を得て、少しずつ近隣住民にも認知されてきているので、来年度以降は再開できることを望む。

ゴミの分別回収では、生ゴミとプラスチックやカン・ビンなどの分別作業をするためのステーションを設置している地域環境団体 Utamaduni をサポート。ロバ車で回収したごみをステーションで分別する作業を地域の若年層の雇用支援として実施。分別したプラスチック、カン・ビンは業者に引き取ってもらった収益は、Utamaduni の就労支援や技術向上のための運営資金とする。

また、ケニア国内ではレジ袋の製造、使用、持ち込みを禁止する条例が施行されたことを受け、Utamaduni のケニア国内向けのエコバック普及活動もサポート。スーパーへの営業、セミナー、研修会な

どでアメニティグッズ、チャリティーグッズとして活用してもらえるように、政府機関や国際機関にアプローチ。

同時に、コロナ禍で屋内外販売イベントが激減してしまったが、職業訓練校洋裁コース卒業生が、日本国内向けのアフリカ布バックの普及もサポート。デザイン、縫製のアドバイス、販路調査、出店先営業、委託販売、購入者からのフィードバックなどをまとめて次の作品に活かせるようにサポートした。Utamaduni のサポートのため、事業費支出はなし。

複合施設 ジョイアスパーク建設

アフリカと言えども、市井の人は野生動物を見る機会は極めて少ない(場所によって国立公園や保護区と隣接している場所ではゾウやシマウマは日常茶飯事で見ることはできる)。小学校などの校外学習や修学旅行で保護区へ行ってはじめて野生動物を見たという子どもも多い。

そこで、2020年のクラウドファンディングで呼びかけ、ダチョウ園を建設。収益が得られればそれをエイズ孤児院の運営費に充てる計画であるが、それだけでは大きな集客は見込めないため、校外学習だけでなく家族連れをターゲットとして、遊戯施設(遊具、アスレチック、ジップライン、迷路、マウンテンバイクコースなど)と、様々な鳥類、カメ、ワニなども併せて飼育し、ふれあい動物園兼環境学習ができる複合施設ジョイアスパークを設立。

その他、ケニアも少しずつ中流層が増えてきて、余暇に家族で出かけることも増えてきているほか、会社の福利厚生、結婚式場としての利用されることも視野に入れている。2022年4月23日オープン。全国版の新聞の地方欄でパークを取り上げた記事が掲載された。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	支出額
定款① 医療援助活動	病院は自立運営しているため、 事業費支出はなし。	年中無休 24時間対応	・エンブ郡内	0円
定款② 医療講習会開催事業	エイズ患者宅への訪問ケア 母子健康セミナー	毎月10回程度	・エンブ郡近郊	2,518,884円
定款③ 各種の職業訓練学校の 運営事業	政府認定校になったことにより、 事業費支出なし			0円
定款④ 教育支援事業	エイズで親を亡くした子ども達を 預かる ACEF ジャンプ&スマイル センター(孤児院)の運営	年間を通して	エンブ郡マキマ 村	5,844,827円
	野生動物とふれあい、環境問 題を学習する施設ジョイアスパ ーク建設、運営			5,479,199円
定款⑤ 有機薬剤及び有機肥 料の普及啓発事業	EM ケニアが有機肥料の製造、 販売、普及啓発活動を担って いるため、事業費支出はなし。			0円
定款⑥ 環境保全に係る事業	Utamaduni によるゴミ回収事業 職業訓練校卒業生によるグッズ 作成、販売のサポート			0円
	上記ジョイアスパーク運営に計 上のため、こちらの事業費計上 なし			
業 実 施 経 費 合 計				13,842,910円

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	支出額
定款① 有機薬剤及び有機肥 料の販売事業	この事業は実施しておりませ ん。			0千円